平成 27 年度 東京都内湾水生生物調査 8 月底生生物調査 速報

東京都内湾水生生物調査

※値・種名などは速報値であり、変更の可能性があります。

地点名 3

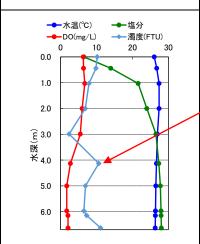
三枚洲(荒川河口)

調査年月日

平成 27 年 8 月 20 日 9:40 ~ 9:50

<調査地点>





〈地点状況、底質状況、底生生物出現状況〉



荒川と旧江戸川の河口に残された天然の浅場。調査時の水深は調地点の水深は7.1mで大潮の干潮時でも干出しない。

水深 5m~底層水の溶存酸素は約 1.71~2.07mg/Lと低く、貧酸素状態であった。また水深 4m 付近では濁度が 10 以上に上昇した。青潮の発生前とよく似た傾向であった。

底生生物は比較的大型のホンビノスガイと多毛類(ゴカイの仲間)が確認された。



底質は砂混じりの泥で、臭いは磯臭に弱い硫化水素臭が混じっていた。 なお、5 月の前回調査では硫化水素 臭は確認されていない。

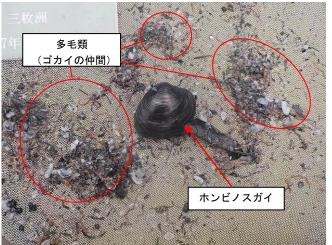


〈主な底生生物〉



5月の調査結果では、Euchone 属とスベスベ ハネエラスピオが優占確認されている。





貧酸素や低塩分など環境変動に強い耐 性を有する。

食用にもなる。

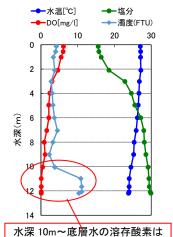
底質が嫌気化(還元状態)しているため殻の表面が黒いが、溶存酸素の豊富な水につけておくと本来の色に戻るようである。

この部分が本来の色

地点名 St.6 調査年月日 平成 27 年 8 月 20 日 10:15 ~ 10:30

<調査地点>





0.44~0.09mg/L で貧酸素状態で

あった。水深 10m 以深では、濁度 が高かったが、これは溶解した硫 化水素による濁りと思われる。

〈地点状況、底質状況、底生生物出現状況〉





調査地点はフェリー埠頭と中央防波堤内側埋立地の間に位置する。水質環境基準点の一つで、赤潮の発生が著しい地点。



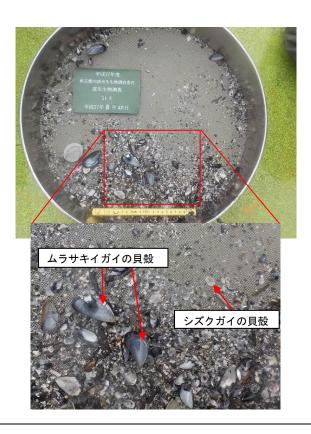
水深 12.7m で採泥。底質は 細かい砂混じりの泥で、強い 硫化水素臭がした。なお、5 月の前回調査では硫化水素 臭は確認されていない。

〈主な底生生物〉

夾雑物は貝殻片が多く、底生生物は多毛類が わずかに確認されたのみであった。



肉眼での同定は困難であるが、貧酸素環境に耐性がある種として、シノブハネエラスピオもしくはスベスベハネエラスピオ等が推定される。



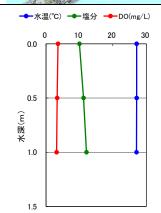
地点名 St.31(多摩川河口)

調査年月日

平成 27 年 8 月 20 日 11:10 ~ 11:30

<調査地点>





〈地点状況、底質状況、底生生物出現状況〉



調査地点は多摩川河口部の川崎市 寄り。工場の排水口の前面に位置 し、水深 1.5m であった。大潮の干潮 時には、川の中に立つことが可能な ほど浅い。



水深 1.5m で採泥。底質は少量の泥 が混じった砂で、臭気はなかった。



フルイに残った試料。 貝殻に混じって、アサリ、ホトトギスガイ、アラムシロガイ等の小型の貝類が採取された。 貝類の出現種は本調査地点が最も多かった。

〈主な底生生物〉



を捕食する。

東京都内湾水生生物調査

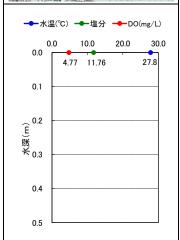
森ヶ崎の鼻 地点名

調査年月日

平成 27 年 8 月 20 日 12:00 ~ 12:20

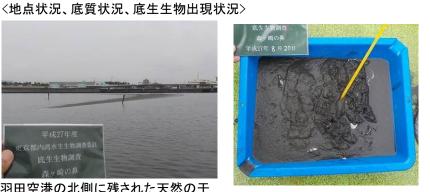
〈調査地点〉





平成27年度

羽田空港の北側に残された天然の干 潟。当日は中潮の干潮時であったため、干出部が少なかった。



底質は砂で、臭いは無かった



フルイに残った試料。貝殻 片が非常に多く、底生生物 としては、アサリ、ホトトギス ガイ等が少量確認された。 量としては 5 月調査より減 少していた。

〈主な底生生物〉



5月調査時、当調査地点では大小さまざまな大きさの個体が確認されたが、今回はほとんど 確認できなかった。



5 月の結果では、カワゴカイ属等が確認され たが、今回は見た目では減少していた。



砂泥底に足糸で砂を固めて、マット状の群体 を作って生息するが調査地点では数個体確認 されたのみであった。

地点名

多摩川河口干潟

調査年月日

平成 27 年 8 月 20 日 12:40 ~ 12:55

〈調査地点〉





多摩川と海老取川の合流点付近に広がる干潟。産卵期の8月は禁漁のため シジミを採る姿は見られなかった。



底質は砂で、5 月と比較して 粘性は高くなかった。



フルイに残った試料。5 月同様、ヤマトシジミが多かったが、ソトオリガイは確認されなかった。また、甲殻類のヤマトオサガニも確認できなか



試料の採取状況。

〈主な底生生物〉



5月の調査結果同様採取量は少なかった。



東京湾奥部の汽水域に生息する。や や汚れた水域の指標生物。



ヤマトシジミは多摩川河口部で近年増加傾向にあるが、一般市民も含めた乱獲が問題となっている。



5月の調査結果では、ヤマトスピオ等が確認された。